

生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発

【194（194）百万円】

対策のポイント

作物が本来持つ病害抵抗性やアレロパシーなど生物間相互作用を活用することにより、化学肥料や農薬の使用を低減する農業生産技術を開発します。

（アレロパシーとは）

生態系の中で、ある植物が環境中に放出する化学物質によって他の植物の生育が阻害される現象で、これを利用して雑草を抑える技術などが研究されています。

政策目標

環境保全型農業技術の開発、普及に貢献

<内容>

1. 生物機能を活用した生産管理技術の開発

植物自身を持つ病害抵抗性を人為的に強化することによる病害防除技術、害虫の天敵を誘引する物質を利用した害虫防除技術、微生物を活用して作物の養分吸収を促進する技術など、作物が本来持つ機能や生物間の相互作用を活用した生産管理技術を開発します。

2. 病虫害センシング技術の開発

生物機能を活用した病虫害防除技術を効果的に実施するため、フィールドサーバ（温湿度等のほ場状況をモニタリングする装置）、フェロモントラップ（フェロモンを用いて害虫を誘引する装置）等を活用した病虫害発生予察技術を開発します。

<実施主体等>

実施主体 独立行政法人、都道府県、大学、民間等
実施期間 平成16年度～平成20年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究開発課（03-3502-0536（直））]

生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発

殺虫・殺菌剤、除草剤、化学肥料に依存した生産技術

生物機能を活用した生産管理技術

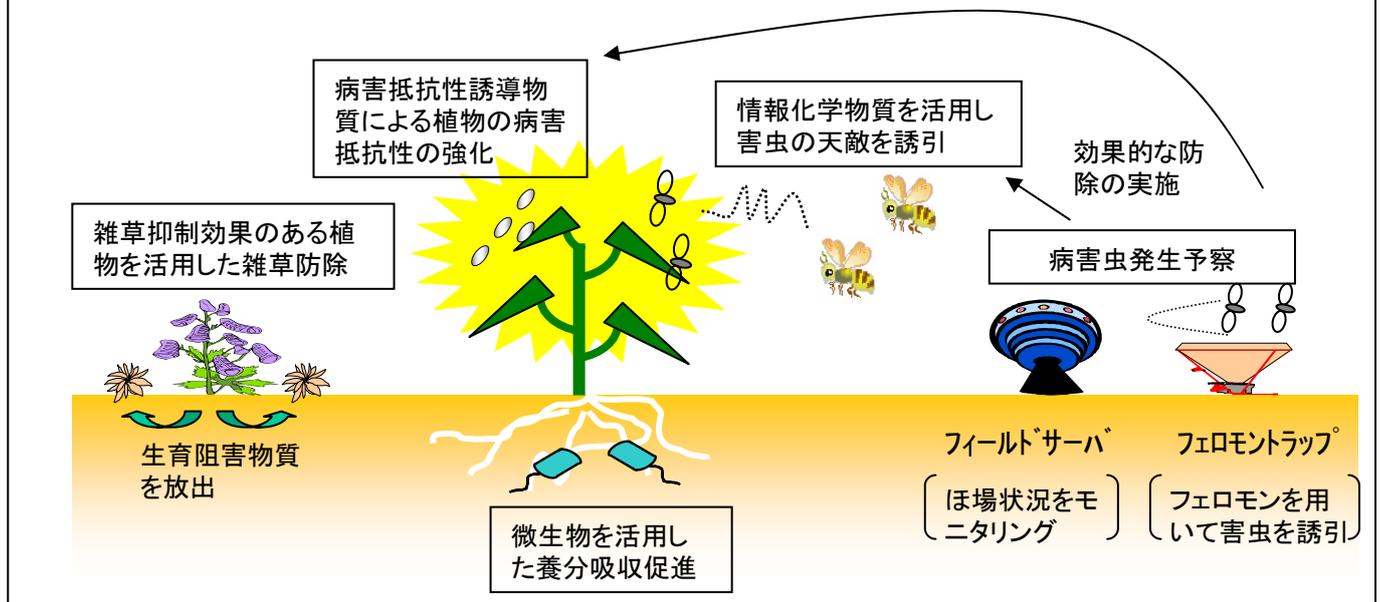
病害発生予察に基づく、プラントアクティベータ(病害抵抗性誘導物質)による**植物の誘導抵抗性**を活用した病害防除

害虫発生予察に基づく、カイロモン(天敵誘導物質)を活用した**天敵**による害虫防除

アレロパシー植物(雑草抑制効果のある植物)を活用した雑草防除

エンドファイト(植物体内で共生している微生物)を活用した養分吸収の促進による化学肥料の削減

等



殺虫・殺菌剤、除草剤、化学肥料等の削減による環境負荷の低減と安全・安心な農産物の提供